

第五校区

地域協働だより

発行
第五校区
地域協働協議会
発行責任者
中谷隆子

平成最後の年特集 災害（被害状況と取組）

その1

自らの地域は、自らで

寝屋川市消防団

郡班班長 中井敦朗
三井班班長 池田祐一

平素は、地域の皆さまには消防団活動に對しまして温かいご理解とご協力を頂き心から厚くお礼申し上げます。

さて、近年の災害や事故は複雑多様な傾向を益々強めております。特に昨年は、6月に発生した大阪府北部地震、7月には西日本集中豪雨に続き台風による風水害と甚大な被害が発生しました。

その様な状況におきまして私たち消防団員は「自らの地域は自らで守る」という郷土愛の精神に基づき、地域の安全と安心を守るために、災害発生時の消火活動を行うだけでなく、地震・風水害など大規模災害時の対応や、平常時においても訓練等の消防・防災力の向上や地域コミュニティの活性化を意識し活動しております。

今後も地域の安全と安心を守るため消防団としての自覚と誇りをもち邁進していきたく考えておりますので、皆さまの引き続きのご支援とご理解を心からお願い申し上げます。



郡東自治会

安否確認実施報告書

平成30年6月18日大阪北部地震発生直後の

午前7時58分震度6弱の大阪北部地震発生直後、自分一人では安全な場所に移動、脱出が困難な方或いは自分の身を守るのが難しい方（要救護者という）独居、高齢者2人住まい、高齢者、乳児・幼児）の地震直後の安否確認調査を実施。

対象者数273名（独居高齢者52名と幼児含む対象者221名）

安否確認結果

在宅確認数236名（病院・介護施設等入院、入所確認の方は確認としてしています）
不在・未確認数37名
確認率86%



成田東町自治会 体験からの学び

大きな「災害」の無かった当地域が、短期間のうちに「地震災害」と「台風災害」を二度も体験する事になってしまった。以下は、そこから学んだ改善の一部です。

○改善（その1）被害状況の把握

	A地区	B地区	合計
屋根瓦	30	17	47
塀	11	3	14
アンテナ	23	34	57
その他	倒木、掲示板、波板屋根など		

注：波板屋根などの軽微被害も含めると、推定被害世帯は3割以上。



○改善（その2）災害発生後の行動マニュアル

- ①自治会役員の行動基準
- ◆自身、家族の安否確認
- ◆災害レベルの把握
- ◆情報収集（インフラ状況、避難所開設）
*震度5弱以上
- ◆近隣被害状況の把握
- ◆重要情報の発信（水や食料配給など）
- ◆個人の行動基準
- ◆自身、家族の安否確認
- ◆在宅か避難行動かの判断

○改善（その3）防災についての啓蒙

- ◆何度も確認し合おう！
 - ◆想定される南海トラフ大地震への備え！
 - ◆災害時、電話がつかまらない！
 - ◆つながりにくい！
 - ◆伝言ダイヤル・伝言板システム（震度6弱以上）の活用
 - ◆地震が発生した時に備えよう！
 - ◆自身発生時の心得！
 - ◆災害への備え、備蓄品を見直そう！
 - ◆テレビの「d」ボタンで寝屋川市の防災情報を入手しよう！
 - ◆避難所情報と体験談！
- （今後の取り組みのキー）
繰り返し・繰り返し行動確認や訓練が今後益々重要になってくるものと考えています。

